

授業科目名	演劇ワークショップ実習A	担当教員	山内 健司 田上 豊
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	1年第2クォーター		
講義内容	この授業の目的は、1.俳優の仕事を通じて他者と関わる力を養うこと、2.戯曲のなかの役の人物という他者を自身の身体で実現していくこと、3.相手役と考えを伝えあい一緒に実現していくこと。短期間で集中して（夏季集中講義）、俳優が戯曲を手にしてから舞台に立つまでの、俳優の仕事のプロセスを知る。短めの戯曲に集中して向き合い、繰り返し上演するトレーニングである「シーンスタディ」を行う。自分の力で戯曲に分け入り、自発的に相手役とコミュニケーションをとって、自分たちの力で演技をつくることを実践。実際に創作の現場に臨むにあたっての土台作りを目指す。		
到達目標	1.戯曲のなかの役の人物という他者を演じることができる。 2.相手役とコミュニケーションをとり、シーンをつくることことができる。		
授業計画	<p>台本を受け取ってから、演技を組み立てる、その具体的なプロセスについて学びます。ダイアログのテキストを使用。 8日間の集中講義（1日6時間）で実施する。</p> <p>1.「問いを立てる」課題1『!』と『?』：個人的に戯曲に分け入る 課題2 「～って、どういうこと?」：戯曲について自分にわからないことを探し、リサーチ</p> <p>2.「台詞とむきあう」1 課題1「遠い言葉、近い言葉、世代・方言・外国語」：ほとんどの言葉は自分の言葉ではない 課題2「言葉の意味」：体験からの想像・想像からのジャンプ</p> <p>3.「台詞とむきあう」2 課題1「反応」：目の前の相手の人と遊ぶ 課題2 「行為」：出来事にする</p> <p>4.シーンスタディ稽古と発表 1巡目：「相手役との対話」</p> <p>5.シーンスタディ稽古と発表 1巡目：「自分で課題設定、自分で振り返る」</p> <p>6.シーンスタディ稽古と発表 1巡目：発表と講評1</p> <p>7.シーンスタディ稽古と発表 2巡目：「自分でつくれるようになる」</p> <p>8.シーンスタディ稽古と発表 2巡目：発表と講評2</p>		
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習として、課題についての個人的な準備（リサーチ、セリフ入れ、演技の課題設定）を十分に行なって授業に臨むこと。</li> <li>・あわせて、相手役との練習を十分に行なって発表に臨むこと。</li> </ul>		
テキスト	・使用する戯曲は授業内で配布する。		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回の授業において参考資料を配付する。</li> <li>・授業内で参考文献等を適宜紹介する。</li> </ul>		

成績評価の基準	・授業内での取り組み・発言（50%） ・発表における取り組み・発言（50%）
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	定員超過の場合は、抽選などで選考する場合があります。